

令和7年度 事業計画



吉 備 国 際 大 学

吉備国際大学

I. 建学の理念・教育目標の具現化について

1. 大学の使命・目的及び教育目標の周知徹底

【教職員に対する周知】

4月に自己点検・自己評価会議を実施し、建学の理念、本学のブランドビジョン＝教育目標を踏まえて前年度の自己点検・自己評価を行い、今年度の目標・計画の作成を行う。

ガルーントップページのバナー、ネームホルダー、名刺など至る所に本学のブランドビジョン＝教育目標を表示して全教職員で教育目標を共有する。

【ステークホルダーに対する周知】

学生便覧や大学案内、ホームページ等の本学が発信するメディアでは建学の理念、本学のブランドビジョン＝教育目標を分かりやすく周知する。

オープンキャンパスや入学前説明会、入学宣誓式、教育後援会総会等の機会において建学の理念、本学のブランドビジョン＝教育目標を分かりやすく説明する。

マスメディアやSNSでも機会を捉えて建学の理念、本学のブランドビジョン＝教育目標を発信する。

II. 学生確保について

1. ブランディングの強化

ブランドの周知と定着

ブランドビジョン＝教育目標である3つの力を伸ばすため大学全体で取り組んでいるのが「地域連携・地域貢献」と「国際化」であり、これが本学の教育の特色であることをあらゆる機会を通じて周知する。

ホームページでは本学の取り組む「地域連携・地域貢献」と「国際化」の具体的な最新の内容を発信する。

各学部・学科の発信するSNSを通して、取り組む「地域連携・地域貢献」と「国際化」について、その趣旨、狙い、成果を含めて詳細を説明する。

2. 入学者受入れ方針（AP）の明確化

APに沿った学生の受入れ

専願入試（AO総合選抜・指定校・特別推薦）入試において、各学科のアドミッションポリシーの質問を追加し、アドミッションポリシーの周知度を確認する。

一般選抜前期A方式（A-II）について、科目試験に加え小論文による選抜を行い、学力の3要素を多面的・総合的に評価する。

一般選抜前期C方式（C-II）について、科目試験に加え外部英語検定試験を利用し、「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語4技能を評価する。

3. 収容定員の充足

収容定員充足に向けた募集活動

ブランドビジョンを柱に各学部・学科・専攻の情報発信を行い、入学定員充足を目指す。

オープンキャンパス参加者を増やして、専願入試（AO総合選抜、指定校、特別推薦）の入学者を昨年以上に確保するために高校訪問、進学ガイダンスや出張講義、独自の学校見学会などを行い、4月～8月までの広報活動を強化する。

Web広告やダイレクトメール等を積極的に活用し、受験生等をホームページ等へ誘導してオープンキャンパスへの参加、受験に結びつける。

本学のホームページやインスタグラムでの情報発信を充実させていく。

「高梁市・順正学園特別奨学金制度」「南あわじ市入学奨励金制度」、岡山キャンパス外国語学部の学生を対象に創設した「伊藤奨学金等の給付型奨学金制度」の周知浸透を進める。

改組等による適切な学科編成

令和8年4月より「1次産業全般を俯瞰した上で、水圏環境や森林環境を保全し、それを利用

する持続可能な新産業の形成に貢献するため、自然生態系とそれらを構成する生物特性さらには自然環境の仕組みを深く理解するとともに、自然環境下における野外活動に必要な技能やコミュニケーション能力、協働する力および専門的知識を身に付けつつ、自然環境を取り巻く人間社会生産構造をも理解する視座の高い人材を養成する。」ことを目的として、農学部アクアグリーンフィールド学科を開設する。入学希望者へ向けた丁寧な説明を心がけ、アクアグリーンフィールド学科の定員確保に繋げていく。

また、学年進行中の人間科学部や令和8年度に定員増を行うアニメーション学部アニメーション学科も、他大学にはない【強み】を入学希望者へPRすることにより、定員確保へと繋げていく。

Ⅲ. 教育の充実について

1. 教育改善・向上

ブランドビジョン実現のための教育課程の見直しと充実

“地域”と“国際”を軸とした全学的な教育プログラムの策定を全学教養教育科目を中心に引き続き検討を進めていく。特に“地域”については、高梁市や南あわじ市との連携を含め、課題解決型(PBL)の授業を取り入れ、本学のDPにある「自己効力感」を高めることができる内容を引き続き検討していく。また、これからの社会に必要とされる情報教育と語学教育については、今後も教育内容の充実と履修者増の取組みを実施するとともに、情報教育については、BYODを推し、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の受講者増加を目指す。

学修支援の強化

学修時間の延伸に向けた方策を検討し、1年次から学修習慣を身につけさせるよう取り組むとともに、将来の目標を明確にできるように積極的に卒業生の事例や社会の第一線で働いている人の事例、国試対策の成功例の導入などを取り入れていくことを検討していく。外国人留学生の学修支援として、「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」を大学ホームページやオリエンテーションなどを通じて学内外に情報発信し、留学生の日本国内への就職支援や留学生募集などに役立てていく。退学者対策についても、引き続き入学段階及び入学後の対人・学修などに関する不安など、各段階で精神的に問題を抱える学生への有効な支援方法を検討する。

学修成果の可視化の推進と教育改善

アセスメントプランに基づき、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価と改善に向けた取組を実行する。アセスメントプランの内容については毎年検証し、見直しを図る。また、「PROGテスト」のデータを活用し、DPの達成度、各種アンケート結果との相関性など、データの分析と検証を行い、教育改善の基礎データとする。併せて学生へのフィードバックを丁寧に行い、学生が自らの能力を確認し、大学生活や将来の目標設定、就職活動に役立てられるようにする。学修ポートフォリオについては、継続して実施し、就職活動に結びつけられるようキャリア教育との連携を検討する。ルーブリック評価については、卒業論文、演習等以外にも範囲を広げ、活用を促進する。

教育改善の取組みへの学生の参画

各種アンケート結果について、学生へのフィードバックの方法を検討し実施する。

また、「カリキュラムコンサルタント」等、カリキュラムについて、卒業する学生に意見を聴取する機会を設け、教育改善に取り組む。

大学院教育の転換と受入れの拡大

メディアを活用した授業手法など社会人が受けやすい体制づくりを行うなど、学部からの進学者のみならず、社会人の学位取得、学び直しやリスキリングなど、様々なニーズに対応した教育課程や授業方法を検討し実施する。

2. 学生支援の充実

学生の意見・要望への対応の強化

学生への対応については、相談や申し出があった時点で速やかに学生部内で検討し、必要に応じて各部署と連携して改善案の協議や対策を講じる。

また、学生と理事長、学長との意見交換会を実施し、従来の施設の改修や要望等を聴取する

のではなく、現状と実態を把握し、より良い未来につながるための意見交換を実施する。

学生の相談体制の見直しと充実

学生部窓口での対応を今まで通り丁寧に行うとともに、相談内容等については状況に応じてユニパのチューデントプロフィールを積極的に活用し、担当教員や健康管理センターと情報共有が行えるよう整備し、学生が個々に抱える問題に対応していく。

課外活動の活性化（クラブ活動）

学生委員会が中心となって、学友会活動の活性化を図る。学園祭実行委員、体育部会、文化部会、留学生会が自立して行動できるよう支援を実施する。

特に、組織として体育部会、文化部会が機能していない状況を考慮し、立て直しができるように核となりうる学生を選定し早期に解決を図る。

課外活動の活性化（地域社会との連携）

留学生会が中心となりインターナショナルフェスタを学外で実施し、留学生についてより市民の方に理解してもらうと共に地域住民との交流が図れるよう支援する。

学生会館を活用した市民との交流会を企画し、新しい場所や取り組みを通して学生と地域社会を結ぶ新たな交流拠点の創造を考える。

キャンパス間交流の充実

高梁キャンパスで開催する伊賀祭への参加をはじめ、南あわじでのくにうみ祭やさなぶり祭への相互参加が岡山キャンパスを含めて実施できるよう支援する。

3. キャリア支援の強化

キャリア教育の充実

学生の主体的・積極的なキャリア形成を支援してくため、1年次から3年次までのキャリア教育において以下の方策を重点的に行う。

- (1) キャリアとは何か、大学で何を習得していくのかを自分で考え実行できるよう情報提供や実践的なキャリア教育を行う。
- (2) 社会的及び職業的自立に必要な能力である基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、キャリア・デザイン能力）を高める演習やグループワークを行う。
- (3) 就職活動に必要な情報の収集、各種書類の作成、試験や面接に関する知識やスキルを教授し、主体的に進路を決定する力を養う。
- (4) 1年次の「キャリアデザインⅠ」では留学生クラスを設け、日本での生活や制度に関する情報、対人関係や就労に必要な知識とスキルを教授する。

キャリア支援における連携体制の構築

学生及び採用企業のニーズや社会情勢の把握に努めながら、「就職率100%」並びに「就職・進学率90%以上」を目指し、以下の対策を重点的に行う。

- (1) キャリアサポート委員をはじめとする各学科教員と連携して、就職関連イベントやオープンカンパニー、学内就職説明会やガイダンス等の周知を徹底し、学生の参加者増に取り組む。
- (2) 動画やオンラインによる面接、グループディスカッションの対策を強化する。
- (3) 「キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」の授業も活用し、3年次生の就職活動や書類作成を実践的に支援する。
- (4) 日本での就職を希望する留学生に対しては、「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」に基づく積極的なキャリア教育や情報提供、就職ガイダンスを行うとともに、個別面談対応を強化していく。
- (5) 学生の能力や個性を卒業後のキャリアに活かすため、学生部と連携した支援を進めていくため、就職に関する情報の共有を行う。

4. 図書館の活用

図書館環境の充実

全キャンパスのパソコンの買い替えを行い、最新のOSやソフトウェアを利用する。

これにより、画面の解像度等を向上させ、電子書籍の読上音声データの再生をスムーズにすることで、利用者の利便性の向上及び学習支援サービスの充実を図る。また、外部サイトから

のウイルス等の脅威から保護されるよう、引き続きセキュリティ強化を図る。

高梁キャンパス、南あわじ志知キャンパスにおいては、学科申請等に伴うカリキュラムに基づいた専門書の収集、データ整理を行う。

南あわじ志知キャンパスは、蔵書数の増加、図書館企画の充実、利用者サービスの向上、電子書籍の利用促進を目指す。

5. 学修環境の整備

施設・設備の整備

常時安全に配慮し、経年劣化による施設・設備の要修繕箇所の洗い出しと対応を行うとともに、学修環境を整え、学生の満足度向上に資する環境を整備する。

学修環境の整備について以下の通り実施を計画している。

高梁キャンパスでは、文部科学省による施設整備費補助金を活用して7・11・14号館の空調機器の一部更新を行う。また、人間科学部人間科学科心理学専攻で使用するシールドルームを14号館内に設置して教育研究環境の充実を図る。

岡山キャンパスでは、授業やオープンキャンパス等で使用する1号館2階の大講義室のプロジェクター2台を更新して学修環境の整備を行う。

また、南あわじ志知キャンパスでは、アクアグリーンフィールド学科が令和8年度に開設予定であり、キャンパス内の定員が増加することに伴う講義室・演習室・教員室等の整備を行う。

IV. 研究推進について

1. 研究力の強化

科学研究費補助金及び公的研究費への応募促進

- ① 研究費公募説明会の充実、科研費申請書の書き方研修会を開催し、全教員のうち半数以上の教員が科学研究費補助金を申請すること、および採択率30%を目指す。
- ② 科学研究費以外の公的研究費及び民間研究費への申請を奨励し、獲得を目指す。
- ③ 学内共同研究費の効果的配分により、科研費への応募を予定する研究課題の予備調査や継続調査を補助し、教員の研究活動を後押しする。

研究部門自己点検・自己評価の実施と評価結果による見直し

学内の研究実績をまとめた研究部門自己点検・自己評価報告書を作成し、外部評価委員からの評価を受けると共に、その評価結果を研究活動の活性化に繋げる。

研究成果の積極的な発信と研究交流の推進

- ① 各教員が学会発表及び研究論文発表に取り組む。
- ② 全教員が年2回のresearchmap更新を確実に実施し、研究成果を発信する。
- ③ 順正学園学術研究交流会を開催すると共に、内容を充実させ、学園内の研究交流の推進を図る。

2. 社会実装の推進

産学官連携研究の推進

- ① 学部単位で産学官が連携する研究会の設置を目指す。
- ② リサーチパーク研究発表会などを活用した学外との研究連携を推進する。

研究成果の地域社会への実装

- ① 地域貢献教育研究活動助成金及びSDGs教育研究活動助成金を配分し、地域志向研究および持続可能社会づくりに関係した研究を推進する。
- ② 学科単位で地域連携研究および地域社会の課題解決を目指した研究を推進する。

3. 研究倫理・コンプライアンスの充実

研究倫理の確立とコンプライアンスの厳正な実施

- ① 研究倫理教育を行い倫理違反ゼロを継続する。
- ② 「公的研究費の不正使用防止に関する基本方針」、「公的研究費の使用に関する行動規範」、「公的研究費の不正使用防止計画」を教職員に周知すると共に「コンプライアンス教育・啓発活動実施計画」に基づきコンプライアンス教育・啓発活動を充実させ、コンプライアンス違反ゼロ

ロを継続する。

研究インテグリティの確保

研究不正や利益相反の防止、安全保障貿易管理などに対し、新たに整備した規程等の運用など、研究の国際化やオープン化に伴う新たなリスクに対する体制の周知を図り、既存の対応と併せてより適切かつ確実に実施することで研究の健全性・公正性を確保する。

研究データポリシーの策定

新たに策定した研究データポリシーの周知を図り、研究者がデータポリシーに則って研究データマネジメントを実施し、機関リポジトリへの研究データの収載と研究データへのメタデータの付与が推進できるようにする。

動物実験への倫理的配慮

日本実験動物学会による外部検証が終了したことを受けて、動物実験に関する教育を確実に行之、動物実験への倫理的配慮を徹底する。

4. 安全への配慮等

化学物質の管理

- ① 環境マネジメントシステムの運用と連携して化学物質の管理を行う。
- ② 化学物質についてのリスク管理を徹底し、事故等の未然防止に努める。
- ③ 毒劇物、麻薬類、放射性物質等について、法令に基づき管理を徹底する。

組換えDNA実験等の安全管理

組換えDNA実験安全管理規程を確実に遵守し、DNA実験等の安全管理に努める。

V. 大学運営について

1. 持続可能性の追求

SDGs達成を目指した活動の推進

- (1) 持続可能性を志向した活動の推進
 - ① 学内で行われている研究活動をSDGsのゴールに紐付けし、持続可能性に寄与する研究を推進する。
 - ② 大学の組織活動をSDGsのゴールに紐付けし、全ての活動を持続可能性に向ける。
 - ③ SDGs教育研究活動助成金を配分し、SDGsに関連関係した研究を推進する。
- (2) 持続可能性に寄与する人材の育成
全ての授業をSDGsのゴールに紐付けするとともに、持続可能性を考慮した事項を教授し、持続可能性に寄与する人材を育成する。
- (3) SDGs活動の情報公開
SDGsへの取り組みを測定・評価し、持続可能な社会の実現に向けた大学の歩みと成果をわかりやすく可視化その成果を可視化するための仕組み及び情報公開のシステムを構築する。

環境マネジメントの推進

- (1) エネルギー消費量の削減
 - ① 令和5年度に策定された中期目標に従い今年度も年平均1%以上のエネルギー消費量の削減を目指す。
 - ② 機器更新時に省エネ機器を設置するとともに、キャンパス内の電灯のLED化を更に促進し、エネルギー消費量を削減する。
 - ③ 環境教育等によるの啓蒙活動を充実し、教職員および学生の省エネ意識を向上させ、エネルギー消費量削減行動を推進する。
 - ④ 2030年温室効果ガス排出量-46% (2013年度比)に向けた取組を行う。
- (2) 環境マネジメントシステム (EMS) 活動の確実な実施
全キャンパスにおけるEMS活動の推進と情報収集に継続的に取り組み、環境負荷の低減を目指す。
- (3) EMS教育の推進
新入生をはじめとし、全学生に対してオリエンテーション時などの機会を活用してEMS教育を実施し、学生のEMS活動への参加を促進する。

2. 職能開発の強化

FD・SDの充実

建学の理念「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」を実現する。さらに、教育目的である「教育基本法および学校教育法の本旨にのっとり、国際化社会に向けて学部・学科の学術研究領域に関する理論及び社会の問題を研究教授し、応用能力をもつ人格を陶冶することを目的とする」、および教育目標（ブランドビジョン）である「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします」の具現化に向け、FD・SD活動の充実と職能開発の強化に取り組む。また、本学の特色である「国際化」および「地域連携・地域貢献」を活かし、授業内容および教育方法の改善に努めるとともに、教育研究活動を適切かつ効果的に遂行するため、組織的な研修機会を設け、教職員の資質向上と能力開発を推進する。

具体的には、春学期に全学的なFD・SD研修会を開催し、教育面における組織的な改善を図るとともに、大学運営に必要な知識やスキルの習得を目指す。現時点では、生成AI（ChatGPT等）を活用した授業設計、アクティブラーニングの推進、学生の自己効力感の涵養、本学の特色である国際化および地域連携・地域貢献に関するテーマを候補として、全学研修会の企画を進める。また、秋学期には学科別FD研修会を開催し、学科の特色に応じた教育改善を進めることで、教員一人ひとりの資質向上と能力開発を図る。さらに、研究費の適正使用や不正対策を理解するためのコンプライアンス教育、ならびに研究者に求められる倫理規範を涵養するための研究倫理教育に関する全学研修会を実施し、教職員のコンプライアンス意識および研究倫理理解の深化を図る。

3. 人権・安全への配慮の充実

労働環境の整備、充実

公益通報に関してコンプライアンス窓口を設けるとともに、通報者に不利益が生じないよう公益通報者保護の制度を整備し、適切に機能させる。

人権関連の研修の充実

岡山県大学人権・同和教育懇談会に参加し、人権教育推進のための教育・研究に取り組む。また、人権教育推進委員会を中心に人権教育推進のための研修会を実施する。

キャンパス・ハラスメントの防止、排除に向けた啓発活動及び研修会を行う。

4. 法人部門との連携の円滑化

管理運営機関の連携と相互チェック

改正私学法及び新寄附行為に則り、法人の管理運営機関を適切に整備し運営する。理事会には学長が理事として就任し、学園の意思決定において大学を代表して意見を述べる。また、学園協議会により設置校間に共通する重要事項を協議し、相互の連携強化と業務の円滑化を図る。大学協議会は総長が招集し、議長となって大学の教学に関する重要な事項の決定について理事会との意見調整を行い意思決定の円滑化を図る。

さらに、これらの理事会、評議員会、学園協議会及び大学協議会等の構成により相互チェック体制を整備し、適切に機能させる。

監事は、理事会及び評議員会に出席して学園の業務及び財産の状況や理事の職務の執行状況を把握するとともに意見を述べる。その他、会計監査人や内部監査部門と連携して監査業務を実施し、その結果を理事長に報告する。

5. 財政基盤の確立

中期的な計画に基づく財務運営と安定した財務基盤の確立

決算をもとに中期財務計画を見直し、学園の今後の財務状況の推移を的確に把握する。また、計画にもとづき安定した財務基盤の確立に取り組む。

学納金のほか外部資金獲得による収入の増加、人件費及び経費の削減による支出の抑制を推進し、収支バランスの改善を図る。

特に、学納金収入について、大学のブランディングにもとづいた広報活動を展開するとともに、より魅力ある学部学科への再編を含めた募集戦略、高梁市・順正学園特別奨学金制度をはじめとする本学独自の学生支援の充実等により、定員確保を目指して学生募集を強化する。

6. 適正な会計処理の実施

職員の知識向上

学校法人会計基準に準拠し、学園の経理関係諸規程に則った適正な会計処理を行う。それを行う上で必要な知識向上を図るため、公益社団法人私学経営研究会が主催する特別セミナーのDVDを購入して会計課内で研修会を実施する。

また、今年度より「学校法人会計基準の一部を改正する省令」が施行されるので、新基準に対応した適切な会計処理が行えるよう、関係資料を熟読して会計担当職員の知識向上に努める。

会計監査の厳正な実施

監査法人による期中監査・実査・期末監査を滞りなく実施する。

公的研究費については、監査法人の監査の他に常勤監事が科学研究費助成事業等に関わる経理関係全ての証憑書類の確認を含めた厳格な監査を実施する。

諸規程に則った適正な会計処理

今年度の学校法人全体の予算編成方針に従い各部門で目的別に編成した予算をシステムに登録した上で、関係諸規程に則って起案を行い適切な予算執行を行う。

VI. 内部質保証について

1. 内部質保証体制の確立

内部質保証体制図に基づくPDCAサイクルの仕組みの確立

自己点検・自己評価結果やその他のIR(Institutional Research)情報の結果報告を受け、改善計画を策定した上で実行に移し、PDCAサイクルを行っている。ただし、検証結果から導き出された“課題”を“改善”へと繋げるための仕組みがまだ不足しているため、各委員会での議論を活性化し、内部質保証委員会の改善指示のもと改善案を策定し実行に移す。

IRを活用した十分な調査・データの収集と分析の実施

大学システムが保有する各種データをBIツールを用いて分析し、教学マネジメント確立に向けて必要な情報提供を進める。また、報告されたIR情報を改善に活用できるよう、IR情報の共有と一元化を図り、教学IRが収集したデータを共有フォルダ等に蓄積し、各学科や部局がカリキュラムや教育改善を検討する際に、いつでもデータが取り出せるような「情報プラットフォーム」を立ち上げるなど情報共有する仕組みの構築を進めていく。

VII. 地域連携・地域貢献の推進について

1. 地域連携・地域貢献の推進

地域貢献推進センター

- ・地域貢献推進センター会議を定期的に開催し、高梁キャンパス、南あわじ志知キャンパス、岡山キャンパスの3つの地域連携センターとの情報交換を密に行う。地域貢献推進センターを核として地域連携・地域貢献活動を推進する。
- ・吉備国際大学地域連携・地域貢献活動報告会を開催する。
- ・地域連携・地域貢献活動記録を作成する。
- ・地域連携・地域貢献活動に関する情報発信を強化する。

連携協力協定の締結

- ・自治体との間で連携協力協定の締結を推進する。
- ・高梁市および南あわじ市と産学官連携に関する情報交換会議を定期的に行う。

地域課題解決への寄与

- ・産学官連携により地域課題の解決に取り組む。

地域連携・地域貢献活動の推進

- ・「地域連携・地域貢献の基本方針」を基にして、全学部、全学科が地域連携活動及び地域貢献活動に取り組む。
- ・半数以上の専任教員が地域連携・地域貢献に取り組む。
- ・ボランティアセンターを核として、地域貢献ボランティア活動を推進する。

- ・地域貢献教育研究活動助成金を配分し、教員・学生等による地域貢献活動を支援する。
- ・大学コンソーシアム岡山の吉備創生カレッジへの講座の提供、日ようび子ども大学へのブース出展などの事業に積極的に協力する。
- ・高大連携活動として「英語スピーチコンテスト」を開催する。

2. 大学の持つ知の地域への還元

公開講座の開催

- ・公開講座を年間20講座以上開催する。
- ・英語講座、街づくり講座など、地域連携・地域貢献および国際化に関係した講座の開講を検討する。

出張講義等

- ・高等学校へのお出張講義を継続して実施する。
- ・国際理解教育、探究学習への支援など、小・中・高等学校と連携した授業を実施する。
- ・イングリッシュキャンプ、インターナショナルフェスティバルの開催など、小・中・高等学校の生徒と大学生が交流する活動を実施する。

3. 地域貢献人材の育成

フォーラム等の開催

- ・学部単位でフォーラム、講演会等を主催して開催する。

地域課題解決型授業

- ・カリキュラム改定に合わせて、全学科が地域課題解決人材を育成する授業を2科目以上、専門教育科目の中で開講する。

地域貢献人材育成プログラム

地域課題解決の担い手を養成・輩出する「地域貢献人材育成プログラム」を学生および社会人向けに開設する。

VIII. 国際化の推進について

1. 国際化に向けた科目内容の充実

国際化に向けた英語学習の充実と異文化・国際事情理解の推進

日本人講師による必修科目「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」や、ネイティブスピーカーによる必修科目「アクティブ英語Ⅰ」の科目内容の充実を図るとともに、選択科目であるネイティブスピーカーによる「アクティブ英語Ⅱ」や「レベルアップ英語Ⅰ・Ⅱ」、その他の諸外国の言語と文化を学ぶ外国語科目内容の充実や教養科目全体の見直しを図る。また、留学生に対する日本語教育を充実させ、日本語能力の向上を図る。

海外留学・短期研修の促進

海外からの研修団の受け入れを通して、異文化理解の魅力を感じてもらい、短期研修や留学への興味を持ってもらうような取り組みを実施する。

留学生に対する学修支援の充実と生活環境の整備

日本語能力試験合格に向けてモチベーションの向上を図る目的で受験料補助を引き続き実施していき、アルバイト情報の提供が効率的にできる運用の検討を図る。

国際社会で活躍できる職能教育と留学生に対する就職支援

1年次必修科目「キャリアデザインⅠ」において留学生クラスを開講し、進路選択に繋がる自己理解やコミュニケーション力の向上を図っている。また、行政書士等を外部講師として招聘し、日本の生活や法律、就労制度について学んでいる。令和6年度からは、「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」に基づく積極的なキャリア教育や情報提供、就職ガイダンスを行うとともに、就職に関する個別面談対応を強化している。特に3年次からは、本格的な就職活動に向けて、自己分析、エントリー方法、履歴書の書き方、面接対策について学習す

る機会を設けるとともに、学内における業界研究・インターンシップ等説明会、企業単独説明会、留学生採用企業の見学会等を実施する。

2. 国際交流の充実

日本人学生と留学生の相互理解の深化による国際人の育成

留学生と日本人学生が互いに協力してインターナショナルフェスタ等のイベントを企画・運営することで、自主性や協調性を養うとともに、相互の国際理解を深めることにより国際社会で活躍するためのスキルを学ぶ。これらの活動を通じて真の国際人の育成に努める。

外国人との各種の交流活動を通じた国際感覚の醸成

外国人とのゲーム、スポーツ交流やイングリッシュキャンプ等を通じて、楽しみながら英語に親しむ機会を設け、他国や異文化に興味を持つようなアクティビティを提供することにより、国際感覚の醸成を図る。

地域社会のグローバル化への貢献

- ・インターナショナルフェスタを学外で開催し、積極的な地域住民への参加を呼びかけ、留学生と触れ合うことで、異文化理解を深めることに寄与する。
- ・留学生と中高生が参加できる国際交流イベントを開催し、相互の国際化への理解を深める。

国際交流プログラムの強化と海外の大学等との連携強化

- ・海外協定校を対象とした夏季短期研修生受入れの実施において、より多くの日本人学生との交流の機会を設けることで国際理解の促進を図る。
- ・コロナ以降実施できなかった日本人学生が長期休暇を利用して参加する協定校への短期研修を再開し、国際感覚を養う機会を設ける。

社会科学部の計画

学生確保

【目標】定員充足率100%の達成

- 【計画】① 入学者の入試データおよび入学理由の分析を広報戦略に活用し、各学科に関心を持つ高校生を把握し、効果的に広報活動を展開する。
- ② 各学科の「特色」や「強み」を明確にし、オープンキャンパスやSNSを活用して積極的に情報を発信する。
- ③ 経営社会学科では留学生別科および海外支局と連携して留学生の確保を図るとともに日本人学生の募集にも注力する。スポーツ社会学科においては、強化 クラブの学生のみならず一般学生の確保にも取り組む。

教育の充実

【目標】① 新カリキュラムの導入

② 退学者0名の実現

- 【計画】① 令和8年度の運用開始を目指し、新カリキュラム策定を完了させる。特に学部共通の短期留学は、両学科で協議のうえ、学部の特色として積極的に打ち出す。
- ② 学習意欲の低下による退学者を防ぐために、教員間における情報共有の徹底を図るとともに、基礎演習や演習科目等を通じて学生の学習意欲を継続的に支援する体制を構築する。

研究推進

【目標】研究活動の継続的な実施、競争的資金の獲得（30%）、共同研究の充実

- 【計画】① 各教員が積極的に学会発表、研究論文発表を行う。
- ② 科研費、民間研究費など積極的に応募する。
- ③ 学内の他学科や他大学との共同研究を推進する。
- ④ 地域課題に焦点をあてた研究活動を展開する。
- ⑤ 業務の効率化および業務分担を検討し、研究活動に充てる時間を確保する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地域連携・地域貢献のさらなる推進

- 【計画】① 高梁市を中心とした地域貢献活動を継続的に実施する。
- ② 学生が主体となった地域貢献に関わるプロジェクトを教員がサポートする。
- ③ 出張講義（講座）や講演会の講師派遣を通じて学術的知見を地域社会へ還元する。

国際化の推進

【目標】学部独自の短期留学プログラムの導入、留学生を通じた国際交流活動の推進

- 【計画】① 短期留学プログラム導入に向けて、両学科と留学先であるマーセッド・コミュニティ・カレッジとの連携を強化する。
- ② 日本人学生と留学生が共に学びあう機会や交流プログラムをさらに促進し、国際交流の機会と質の充実を図る。

経営社会学科の計画

学生確保
【目標】定員充足率100%の達成 【計画】① 学科入学者データを基に入試広報室と連携し、高校等への出張講義を実施する。 ② 2026年4月開始学科新カリキュラムの特長を活かした新たな広報戦略を行う。 ③ オープンキャンパス参加者の増加とともに参加者の満足度の向上を目指す。
教育の充実
【目標】① 学科新カリキュラムの導入と、旧カリキュラムからのスムーズな移行 ② 退学者を1.5%以下とする（*2025年度2.2%、2024年度3.5%） 【計画】① 学部共通の短期留学プログラム、新学生会館（KIUB）を活用した模擬起業型授業を開始する。 ② 基礎演習・演習を通じた学生のサポート体制をさらに充実させる。
研究推進
【目標】各教員の研究活動の継続的な実施、科学研究費の申請率向上（30%目途） 【計画】① 各教員が少なくとも年間1本or1回の研究論文執筆・学会報告を行う。 ② 競争的資金（科学研究費、民間研究費）へ積極的に応募する。 ③ 学内（特にスポーツ社会学科）の共同研究を推進する。
地域連携・地域貢献の推進
【目標】地域連携・地域貢献活動をさらに推進する。 【計画】① 高梁市を中心とした地域貢献活動を継続的に実施する。 ② 学生主体の地域貢献型プロジェクトを各教員が積極的にサポートする。 ③ 出張講義・研修会の講師派遣を通じて学科専門性を地域社会へ還元する。
国際化の推進
【目標】8カ国の学生が共に学びあう教育体制をさらに整備する 【計画】① 多文化理解を深めることが可能な交流プログラムを増やす。 ② 留学生の日本語学習意欲の促進をはかる。 ③ アメリカ短期留学プログラム導入に向けて、留学先であるマーセッド・コミュニティ・カレッジの現地情報を具体的に収集する。

スポーツ社会学科の計画

学生確保

【目標】定員充足率100%

- 【計画】① 入試広報室、学科各教員の情報収集と情報共有を徹底する。
 ② 模擬授業、校内ガイダンスの積極的な参加、オープンキャンパスを強化する。
 ③ 新カリキュラム・スポーツ短期留学について周知する。
 ④ 情報発信活動を継続して実施する：学科InstagramやFacebook更新を継続する。
 ⑤ 強化クラブに加えて、一般学生確保に向けて上記計画を徹底する。

教育の充実

【目標】① 各種資格試験・教員採用試験の合格率向上に向けた支援体制システムの構築

② 退学者0名の実現

③ 新カリキュラム導入

- 【計画】① 各担当教員が連携し、成績が振るわない学生への個別指導、異なるレベルの対策講座に取り組む。「縦・横・全体のつながり」を強化し、学生のモチベーション向上を図る。
 ② 教務課との連携に加えて、部活や学年を超えた「つながり」がもてる取り組みを実践する。
 ③ 令和8年度運用に向けて新カリキュラムを完成させる。スポーツ短期留学を含めスポーツを多角的に捉えることができる内容とする。

研究推進

【目標】研究活動の継続的な実施、競争的資金の獲得、共同研究の充実

- 【計画】① 研究時間を確保し、学科内勉強会を継続して実施する。
 ② 科研費、民間研究費など積極的に応募する。
 ③ 学科内、他大学との共同研究を継続する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】高梁市との連携し、地域連携・地域貢献の推進

- 【計画】① 健康づくり課と連携し、健康寿命延伸のための健康教室、体力測定を継続する。
 ② 中学生の部活動支援について、継続的に実施できるシステムの構築について行政と連携し、引き続き検討する。
 ③ 出張講義(講座)や講演会の講師派遣を通じて学術的知見を地域社会へ還元する。

国際化の推進

【目標】海外スポーツ短期留学の推進

- 【計画】① スポーツ留学経験者による情報収集、発表会を実施する。
 ② スポーツ短期留学先(マーセッドカレッジ)と連携を継続する。

看護学部 看護学科の計画

学生確保
目標：定員充足率（学部生、編入生）100%を目指す。 計画：・OC、高校ガイダンスで本学科の魅力を広報する。 ・OC内容を参加者の希望に応じて主体的に参加できる内容に変更する。 ・SNS、学科HP等でタイムリーな情報を発信する。
教育の充実
目標：国家試験合格率（看護師・保健師）100%・就職率100%を達成する。 計画：・全教員が連携して、1年次から計画的に国家試験対策に取り組む。 ・キャリアサポートセンターとの連携を密にして就職試験対策を充実する。
研究推進
目標：各教員が研究活動に意欲的に取り組み研究業績を上げ、科研費採択を目指す。 計画：・各教員が計画的に研究活動に取り組む。 ・各教員が学内外の学術交流を積極的に行い新規科研費獲得に向けて取り組む。
地域連携・地域貢献の推進
目標：高梁市との地域連携・地域貢献を推進する。 計画：・高梁市、看護協会高梁支部と連携を図り地域連携、地域貢献を強化する。 ・臨地実習を通じて、地域貢献活動に優位な人材を養成する。
国際化の推進
目標：学内の交流事業に参加し、外国人留学生、日本人学生との国際化を推進する。 学生の希望に応じて、海外留学、短期研修参加支援を促進する。 計画：・学生に学内交流事業参加を指導する。 ・学生の留学、研修参加ニーズを把握し支援する。

理学療法学科の計画

教育の充実

【目標】国家試験合格率100%の持続、および退学者発生の防止

【計画1】教育内容の改善の実行

- ① 国J試験対策により専念できるように、卒業研究発表の負担軽減を図る。
- ② 3年生に対して、国試問題により多く接触させ、全国模試を2回実施する。
- ③ 作業療法学専攻との連携を密にし「国家試験対策」を円滑に進める。
- ④ キャリア形成力を高められるように就活に関する助言を多く行う。

【計画2】退学予防

- ① 5年以上在籍の学生の春学期（休学中）対策を行い、信頼関係を維持し、基礎医学の得点率を高める。
- ② 留年生に対する面談を実施する。

【計画3】不適応学生の発生予防の工夫

- ① 習熟遅れ、不本意、メンタルや学習課題を抱えている学生を1年次に発見する。
- ② 留年生には、苦手分野の基礎医学の対策を早め、習熟を促す。
- ③ 実習の不適応に対して、プロパー間の情報共有を増やして対応する。

研究推進

【目標】競争的資金獲得の増加

- 【計画】① 科研費、民間助成金の獲得に向けて応募件数を増やす。
② 企業との共同研究契約事業、社会実装などを継続する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】教員による地域貢献活動の増加

- 【計画】① 臨床実習指導者講習会、まちなかゼミナール、新興感染症対策委員会等への参画を継続する。
② 研究課題を通じた新たな産学連携を開拓する。

【目標】地域連携に通じる専門科目教育の増加

- 【計画】① 3年生は「国際貢献・地域理学療法学」「理学療法管理学」等でゲストを招聘して社会貢献のあり方の授業を行う。

国際化の推進

【目標】国際的な活躍につなげていくための教育の増加

- 【計画】3年生に、「国際貢献・地域理学療法学」等で視点を教える。

作業療法学科の計画

教育の充実

【目標】 資格取得に向けた教育の充実を図り、退学者および除籍者ゼロの達成を目指す。

【計画】

国家試験合格率100%の4年連続達成を目指す。

退学者および除籍者ゼロの実現を目指す。

在学生の満足度向上に努める。

研究推進

【目標】 科研費等の競争的資金獲得の増加および研究活動の活性化を図る。

【計画】

若手教員による競争的資金獲得を促進し、応募件数の増加を目指す。

学内外における共同研究の推進を奨励する。

論文や著書の執筆、学会発表の実施を奨励する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】 地域連携および地域貢献活動の継続を図る。

【計画】

高梁市の施設と連携し、ワークシェアリングや園芸療法を継続する。

臨床実習指導者講習会やまちなかゼミナール等の活動を継続する。

地域連携に関連する専門科目の提供を継続する。

国際化の推進

【目標】 国際人としての視点を養い、視野を広げる。

【計画】

フィンドレー大学との連携を継続し、学生・教員の国際交流や学術交流を検討する。

授業を通じて国際的な視点や異文化理解を深め、多様な価値観や考え方を学ぶ機会を提供する。

心理学部 心理学科の計画

教育の充実

- 【目標】心理学の学びを愉しんでもらえるよう教育の充実を図るとともに、退学者および除籍者を５％以下を目指す。
- 【計画】
- ・公認心理師受験基礎資格取得希望者の把握とそれに向けての個別支援の充実。
 - ・教員免許取得希望者への個別支援の徹底。
 - ・学生間、学生-教師間の関係性向上に努め、退学者および除籍者の減少を目指す。

研究推進

- 【目標】科研費等の競争的資金獲得の増加および研究活動の活性化を図る。
- 【計画】
- ・若手教員による競争的資金獲得を促進し、応募件数の増加を目指す。
 - ・学内外における共同研究の推進を奨励する。
 - ・地域連携と関連づけた研究活動を推進する。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】地域連携および地域貢献活動の継続を図る。
- 【計画】
- ・高梁市教育委員会関係の連携を継続する。
 - ・地域と連携した防災教育の充実を推進する。
 - ・学生に対してボランティア活動を推奨する。

国際化の推進

- 【目標】国際人としての視点を養い、視野を広げる。
- 【計画】
- ・留学生と日本人学生の交流の場を設け、多様な価値観に接する機会を用意する。

農学部計画

学生確保

【目標】新入生の定員充足100%を目指す。

【計画】令和8年度からアクアグリーンフィールド学科が新設されるため、本年度から募集が開始される。また、地域創成農学科の農業資源生物学科への改名に伴い、オープンキャンパスなどでは3学科の魅力を短時間にわかりやすく説明するための工夫を行う。年内定員充足を目標として、AO総合選抜、指定校推薦などの説明を保護者・受験生に徹底する。

教育の充実

【目標】学ぶ楽しさ世界1をスローガンとし、退学者0名を目指す。

【計画】学ぶための原動力の気づきを誘導し、原理と実践をつなげ、学生に学ぶ楽しさを実感してもらう教育を行う。また、学生数が増加するため、さらに細やかな指導と、教員間の情報交換を密に行う。

研究推進

【目標】競争資金の獲得。

【計画】学部内学術交流会の開催を計画し、教員間の相互理解と学科間での共同研究体制を構築する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地域企業及び地域との連携をさらに強化する。

【計画】地域企業との協議会に積極的に参加し、学術面における地域企業との共同研究を活性化。令和8年度より新学科設立予定のため、南あわじ市4つの研究会の再編を計画する。

国際化の推進

【目標】海外留学生との交流の活発化

【計画】岡山キャンパス、高梁キャンパスの海外留学生へ、農学部主催のイベント(さなぶり祭、くにうみ祭)のアナウンスを行い、より多くの参加者を確保し、学部学生との文化の相互理解を促進する

地域創成農学科の計画

学生確保

【目標】新入生の定員充足率100%を目指す。

【計画】2026年度より、本学科は「農業資源生物学科」に名称を変更し、それに伴い新たなカリキュラムが開始されることから、本情報を積極的に周知していく。また、在学生が主体的に活躍するオープンキャンパスを実践し、高校生や保護者にとって、親しみ安く、キャンパスライフを実感できる場を提供していく。加えて、高校ガイダンスや出張講義等で、本学科の多様な取組を紹介し、その魅力を精力的に発信していく。

教育の充実

【目標】退学者の低減。実習講義の充実および座学講義との連携。

【計画】連崎欠席者などの情報を頻繁に共有し、チューターのみならず学科教員一丸での徹底的なフォローを実践していく。また、早期に三者面談を実施し問題解決に向け細かな対応を行っていく。本学科では、実習・実験講義を重視し創意工夫を凝らして推進してきた。本年度も引き続き、実習科目とそれに関連する座学科目を連携・補完させ、原理と実践の両面から学習し体得することで、学生の理解度と満足度がより高まる講義体系の構築を目指す。また、資格科目の単位取得を推奨していく。

研究推進

【目標】共同研究の推進と外部資金の獲得

【計画】学内外にとらわれず共同研究を推進していく。特に、海洋水産生物学科と積極的に連携し共同研究を提案実践することで、互いの特色を活かし、科研費など競争的資金の獲得に繋げていく。また、学会や学術誌での成果報告を推奨していく。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地域連携活動の見える化

【計画】既に本学科では、数多くの地域連携活動を行っている。その反面、活動内容やその成果に関する情報発信は十分であるとは言えない。そこで、WebやSNSを通じて、地域社会に分かりやすく発信し、本学科の意義を伝え知名度を上げていく。本学科の弱点である地元学生の少なさを解消していく上で重要な取組と考える。

国際化の推進

【目標】留学生受入れ態勢の強化および留学生との交流

【計画】本学科では留学生数が少なかったこともあり、そのフォローアップ体制が万全であるとは言えない。そこで、教職員や日本人学生との交流を積極的に促進し、留学生がストレスなく学生生活を送れる態勢を整えていく。また、他学科の留学生を学科イベントに招くことで、本学科学生が文化的多様性の理解を深める場を提供していきたい。

醸造学科の計画

教育の充実

【目標】 退学および留年の防止

【計画】 連崎欠席者などの情報を頻繁に共有し、チューターのみならず学科教員一丸での徹底的なフォローを実践していく。また、早期に三者面談を実施し問題解決に向け細かな対応を行っていく。加えて、留年者をださようように計画的な単位の履修や習得を徹底的に指導していく。

研究推進

【目標】 共同研究の推進と外部資金の獲得

【計画】 学内外にとらわれず共同研究を推進していく。特に、地域創成農学科および海洋水産生物学科と積極的に連携し共同研究を提案実践することで、互いの特色を活かし、科研費など競争的資金の獲得に繋げていく。また、学会や学術誌での成果報告を推奨していく。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】 地域連携活動の見える化

【計画】 本学科では、数多くの地域連携活動を行っている。その反面、活動内容やその成果に関する情報発信は十分であるとは言えない。そこで、WebやSNSを通じて、地域社会に分かりやすく発信していく。

国際化の推進

【目標】 留学生との交流

【計画】 他学科の留学生を学科イベントに招くことで、本学科学生が文化的多様性の理解を深める場を提供していきたい。

海洋水産生物学科の計画

学生確保

【目標】定員充足率100%を目指す。

【計画】オープンキャンパスを強化し、受験生、保護者、進路指導教員に対し魅力的な情報を提供する。また、SNSを活用することにより、教員に加え学生からも情報発信を行い、新学科の認知度を高める。マスメディアとの良好な関係を継続するとともに、高校訪問、出張講義にも注力する。

教育の充実

【目標】体験型学習や魅力のある授業を行うことにより、「海業」全般に関する基礎的な知識を習得させる。退学者0名を目指す。

【計画】学生一人に一台ずつ水槽を管理させるとともに、臨海実習棟を活用し、水生生物の採集や飼育を体験させる。大学祭等のイベントでスモールビジネスの模擬体験をさせる。また、退学者防止策として、学科教員間の情報交換の機会を増やすとともに、学生とのコミュニケーションの機会を増やし、学生の異常を早い時期に察知し、きめ細かい指導を心がける。

研究推進

【目標】科研費をはじめ競争的資金の獲得に努力する。教員間の学術交流を活発にする。

【計画】教員間で積極的な学術交流を行うとともに、科研費やその他の競争的資金への応募を積極的に行う。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地元自治体と連携し、イベントや会議に積極的に参加することにより地域に貢献する。

【計画】兵庫県が設置した「ひょうご豊かな海づくり県民会議」、南あわじ市が実施する「福良湾環境保全事業」等に参画し、漁場環境研究や学生による豊かな海づくり活動を進展させる。また、地域住民や自治体と緊密に連携をとりながら、地元のイベントへの参加・協力も積極的に取り組む。

国際化の推進

【目標】地域創成農学科と協力し、海外留学生と日本人学生との交流を促進する。

【計画】さなぶり祭等のイベントにおいて、魚介類を含めた様々な食材によるバーベキュー等を行い日本の食材についてよりよく理解してもらう。

外国語学部 外国学科の計画

学生確保

【目標】入学充足率100%を目標とする。

【計画】専願入試の応募者をどれだけ多く確保するかが重要であるため、これまでの取組みに加え、以下の取組みを工夫し実施する。

1. オープン・キャンパスにおける工夫：「保護者向けセッション」や「卒業生の活躍状況報告」などをプログラムに入れる。学生マップを示し、在学生の通学手段、居住形態・家賃などの情報提供を行う。伊藤奨学金など留学向けの給付型奨学金制度をていねいに説明する。卒業生を含む、発信力のある学生を中心に参加学生や保護者とのコミュニケーションをしっかりとるようにする。国際的な雰囲気を醸し出すため、留学生によるお国自慢の飲み物（お茶、コーヒーなど）を試飲してもらう。
2. 高大連携事業の活性化：高校における探求的な活動に対する積極的な支援、English on Campusの実施、出前講義などの活用
3. 外国学科がある岡山キャンパスの位置などの認識が低いため、教員ほかが学内外のイベントに参加する場合、「外国学科は岡山市内にある」ことをPRする。

教育の充実

【目標】学生たちが楽しく学び、自己効力感を育み、やる気スイッチを入れられるよう、教育の充実を図る。国際交流の強化。年間退学者・除籍者0名を目標とする。

【計画】教育の充実においては、学びあい、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを授業により一層取り入れていく。海外教育提携校との積極的な国際交流を行い、学生同士が刺激しあって成長する機会を増やす。学科FD/SDを通じて、アクティブ・ラーニングなどの工夫などを学科内で共有する。他教員の授業を参観して指導方法を学ぶことを勧奨する。ゼミ演習の中に、縦割りの活動を加え、先輩の話聞く機会をもつようにし、大学生活の見通しをもてるようにする。留学準備並びに退学防止のために、保健室カウンセラーによる入学生全員の個別面談実施、その後のフォローを学科一丸となって行う。

研究推進

【目標】各教員が研究活動に積極的に取り組む。競争的資金獲得を目指す。

【計画】学科研究紀要『グローバルデザイン論攷』を活用し、研究の活性化を図る。また、科研費等の応募を勧奨する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地域連携・地域貢献を推進するため、学生リーダーなどの人材育成に取り組む。

【計画】岡山キャンパスが所在する地域の教育機関における交流イベントへの積極的な参加を行う。英語教員による「まちなかゼミナール」への出講を積極的に行う。「日ようび子ども大学」など大学コンソーシアム岡山の事業への積極的な参加を行う。岡輝中学校区の「輝け岡輝！」や公民館の異文化交流イベントなど、キャンパスがある地域のイベントに積極的に貢献する。これら活動においては、学生のリーダー育成が課題であるため、主体的に行動できる学生の育成を日ごろから意識的に行う。

国際化の推進

【目標】国際交流を積極的に進める。

【計画】海外教育提携校からの夏季短期研修団の受入れ、日本政府の国際理解促進事業（かはしや jenesys）への参画などに、積極的に取り組むことにより、学生の異文化理解の増進、国際感覚の醸成を行う。交換留学生を含む留学生と日本人学生との交流の機会を増やし、異文化理解や学びあいの機会を提供する。本年度に限り、大阪万博を観に行く学生には、国際交流促進の観点から、支援策を検討し、入場料の一部補助などを行う。

アニメーション学部 アニメーション学科の計画

学生確保
【目標】 定員充足率を100%にする。 【計画】 学科の知名度を上げることと在学生の満足度を高めることを重点的に実施する。 ① 学科内のPC環境などを見直し、「アニメスタジオ就職に繋がる実技教育」を充実させ、入試広報室と連携してメディアへの露出を多く行う。 ② 就職率を高め、卒業生の声をオープンキャンパスに反映させる。 ③ 高校訪問を行い、教育や進学について具体的に連携する。
教育の充実
【目標】 学生の満足度を高め、就職率を100%にする。 【計画】 就職に直結する内容を検討し、カリキュラム改正を検討する。 ① アニメーション業界での実践的な教育方法を取り入れて就職率を高める。 ② アニメーション関係の教員を新規に採用し、専門性をカリキュラムに反映する。 ③ PC環境を充実させ、学生との対話の機会を増やし熱中できる課題を作る。
研究推進
【目標】 各教員の専門性を高める環境を整え科研費申請を増やす。 【計画】 各教員による専門的研究を横断的に意味づけ研究発表に結びつける。 ① 学生にとって有効な教育法を研究する。 ② 各教員の研究環境を安定させることで研究を進め学科内で発表の機会を設ける。 ③ デジタル環境の整備に伴って、技術的な研究を進める。
地域連携・地域貢献の推進
【目標】 地域の各団体との連携を深め、学科の可能性を高める。 【計画】 地域連携の具体的な案を高校や関係団体と検討し実施する。 ① 学生が地域で活躍できる場を創出できるよう計画する。 ② 例年続いているゲームジャムなどのイベントに主体的に参加する。 ③ 高校訪問を通じて高校への入学者も増加するような具体策を検討する。
国際化の推進
【目標】 留学生の受け入れを充実させ日本人学生の国際的な視野を広める。 【計画】 各国支局長等との連携を深め、留学生の満足度を高める。 ① 留学生の希望の聞き取り回数を増やし、進路の満足度を高める。 ② 日本人と留学生の交流の場を増やし言語習得の機会を作り日常的国際化を進める。 ③ 留学生の日本語能力、日本人の英語能力を高める具体的な方策を検討する。

人間科学部 人間科学科の計画

学生確保

【目標】人間科学部人間科学科の魅力を発信し、定員充足率100%の達成を目指す。

【計画】

参加者のニーズに配慮し、柔軟なスケジュールを調整することで、3専攻の内容を効果的に周知できるオープンキャンパスを実施する。

人間科学部人間科学科で学ぶ意義、3専攻の共通点と独自性、取得可能な資格の充実、学費の経済性、国家試験合格率の高さ等、本学部の特徴を明確に示し、積極的に発信する。

在学生の満足度向上に努め、肯定的な口コミの拡大を図る。

進学ガイダンス等に積極的に参加し、高校生に対して直接、人間科学部人間科学科で学ぶ意義を伝える。

教育の充実

【目標】資格取得に向けた教育の充実を図り、退学者および除籍者ゼロの達成を目指す。

【計画】

3専攻においては、1年次から退学者および除籍者が発生しないよう、学生一人ひとりに応じたきめ細やかな対応を実施する。

心理学専攻では、公認心理師基礎受験資格や教員免許状等の取得を希望する学生が資格取得できるよう、1年次から必要な指導と支援を行う。

理学療法学専攻および作業療法学専攻では、1年次から国家試験合格率100%の達成を目指し、アクティブラーニングに基づく体系的な国家試験対策、実践的な学修支援を実施する。

研究推進

【目標】科研費等の競争的資金獲得の増加および研究活動の活性化を図る。

【計画】

若手教員を中心に競争的資金の獲得に向けて応募件数を増やす。

学科内外における共同研究の推進を奨励する。

論文や著書の執筆、学会発表の実施を奨励する。

研究課題を通じて社会実装や産学連携の推進を図る。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地域連携および地域貢献活動の継続を図る。

【計画】

高梁市教育委員会や保健所などとの連携を継続し、教育・地域保健・人材育成など多面的な地域課題の解決や発展に寄与する。

高梁市内の施設と連携し、ワークシェアリングや園芸療法など、地域福祉や高齢者支援に資する活動を継続する。園芸療法は高齢者の心身の健康維持に有効であり、地域施設での継続的な実践が重要である。

臨床実習指導者講習会、まちなかゼミナール、新興感染症対策委員会等の活動を継続し、専門職の育成や地域住民の学び・健康増進、感染症対策の強化に取り組む。

地域連携に資する専門科目を継続して開講し、学生が実体験を通じて地域との関わりを深め、地域課題の発見や解決に主体的に参画できる教育を推進する。

国際化の推進

【目標】国際人としての視点を養い、視野を広げる。

【計画】

留学生と日本人学生との交流を活性化し、異文化理解を促進する。

フィンドレー大学との連携を継続し、国際交流や学術交流の機会を検討する。

授業を通じて国際的な視点を学ぶ機会を提供する。

通信教育部 子ども発達教育学科の計画

教育の充実

【目標】

令和2年度学生募集停止となったが、在学生の教育については人格の陶冶と専門性向上によるバランスの取れた人材養成に努力する。

【計画】

- ① テキスト科目については、科目担当教員が指定する教科書や参考書を用いた自宅学修であるが、科目単位認定試験については、コロナウィルス等の感染予防対策を徹底して、対面試験を実施し、学力向上の実質化を図る。
- ② スクーリング科目については、コロナウィルス等の感染予防対策を徹底して、全科目を対面授業で行い、学修成果の向上を図る。
- ③ 退学者対策としては、ゼミ担当教員による懇切丁寧な指導により、学生が気軽に相談できる環境を整え、退学者0名を目指す。

研究推進

【目標】

教員の個人研究ならびに共同研究の促進を図り、外部研究資金・補助金の獲得を促進する。

【計画】

高梁市の「次世代育成支援対策」に関わる研究を促進し、岡山県の子育て支援地域貢献事業補助金の獲得や、科研費申請・採択を目指す。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】

高梁市内の子育て家庭に対する支援をはじめ、行政や各種団体の各種協力要請に可能な限り応需する。

【計画】

「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ」事業として、子育て中の親子を対象とした「子育て講座」や、保育園・幼稚園・認定こども園・子育て支援団体等の教職員を対象とした「子育て支援者講座」を複数回実施する。また、教育委員会や各種団体の委員を複数受託し、地域貢献に努める。

国際化の推進

【目標】

異文化・国際事情の理解を深め、国際化・グローバル化時代の様々な国際問題の理解や取り組むべき課題に関する知識・洞察力を涵養する。

【計画】

授業科目として配置している「外国語(英語Ⅰ,Ⅱ)」や「多文化理解」、「国際社会学」等を未履修の学生には履修指導を行い、国際化の理解を深めるよう自己学修を促す。

社会学研究科の計画

学生確保

- 【目標】博士(前期)課程、博士(後期)課程の入学定員100%を目指す。
【計画】ホームページ、論文・著書の公表、講演、学会の出席、学科の通常授業(学内進学)などを通じて魅力ある社会学研究科の情報発信を積極的に行う。

教育の充実

- 【目標】学習満足度の向上と退学者ゼロ%の達成
【計画】学習満足度の向上のための充実した教育環境の提供、懇切丁寧な研究指導(主指導教員と副指導教員2名)と留学生への日本語学習支援に力を入れる。
・院生が抱えている悩みを早期に把握し、解決し、退学者のゼロ%を達成する。
・留学生の論文執筆のための学習支援をし、修了できるようにする。

研究推進

- 【目標】科研の採択、外部資金獲得の向上
【計画】・各教員は科研の採択、外部資金獲得のために努力する。また、研究力レベルアップと研究科のブランド力を高めるために論文、著書の公表、学会出席および学会発表ができるように努力する。
・研究活動に充てる時間を十分に確保し、研究しやすい環境を提供する。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】地域連携・地域貢献のさらなる推進
【計画】各教員は教育・専門分野を活かして講演、公開講座、ボランティア活動などの社会(地域)貢献活動に積極的に取り組む。

国際化の推進

- 【目標】留学生との交流を通じた地域住民との交流
【計画】授業を通して異文化・国際事情などの理解の促進、留学生の日本国内の就職支援と学習支援(日本語教育)の充実、留学生と日本人学生(地域住民)との交流を図る。

保健科学研究科の計画

学生確保

- 【目標】 入学定員充足率100%の達成を目指す。
- 【計画】
 在学生の満足度向上に努め、口コミによる評価の強化を図る。
 学会やホームページ等を活用し、研究科の独自性および強みを積極的に発信する。
 カリキュラムが社会的ニーズに適合している点を明確に示す。
 学部と大学院の連携による一貫教育制度の推進を進める。

教育の充実

- 【目標】 研究指導の質および学位の価値を高め、退学者ゼロの実現を目指す。
- 【計画】
 研究指導は主指導教員1名と副指導教員2名による体制とし、学位論文の提出に向けて十分な支援を行う。
 学位審査は主査1名、副査2名により厳正に実施し、学位の価値向上に努める。
 きめ細やかな対応を徹底し、退学者ゼロの達成を図る。

研究推進

- 【目標】 研究活動への積極的な取り組みと、競争的資金の獲得を目指す。
- 【計画】
 研究科内における学術交流を促進し、大学院生および教員の研究活動を活性化する。
 教員に対して科研費等の競争的資金獲得を積極的に推奨する。
 論文・著書の執筆や学会発表の実施を奨励する。
 研究課題を通じた社会実装および産学連携の推進を図る。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】 地域連携および地域貢献の推進を図る。
- 【計画】
 授業や研究指導を通じて、地域連携や地域貢献に資する研究課題を検討する。
 岡山県看護協会高梁支部、高梁地域内病院の看護研究指導、まちなかゼミナール、高梁市ミニデイ、ワークシェアリング就労支援プロジェクト、グリーンヒル順正等による園芸療法の実践、高梁市介護予防教室等の活動を継続する。

国際化の推進

- 【目標】 国際学会での発表や英語論文の執筆を推奨する。
- 【計画】
 英語論文の読解などを通じて、世界の研究動向を理解する機会を設ける。
 授業や研究指導を通じて、研究課題の国際的な動向を検討する。
 国際誌への研究論文投稿等を奨励する。

(通信制)保健科学研究科の計画

学生確保

【目標】 入学定員充足率100%の達成を目指す。

【計画】

在学生の満足度を向上させ、口コミによる評価の強化を図る。
学会やホームページ等を活用し、研究科の特色を広報する。
カリキュラムが社会のニーズに適合していることを明確に示す。

教育の充実

【目標】 研究指導の質および学位の価値を向上させ、退学者ゼロを目指す。

【計画】

研究指導は主指導教員1名と副指導教員2名による体制とし、学位論文の提出を支援する。
学位審査は主査1名、副査2名で厳正に実施し、学位の価値を高める。
授業では多様なメディアを活用し、質の高い通信制教育を行う。
きめ細やかな対応を徹底し、退学者ゼロの実現を図る。

研究推進

【目標】 研究活動への積極的な取り組みおよび競争的資金の獲得を目指す。

【計画】

研究科内での学術交流を促進し、大学院生および教員の研究活動を活性化する。
教員に対して科研費等の競争的資金の獲得を積極的に推奨する。
論文や著書の執筆、学会発表の実施を奨励する。
研究課題を通じて社会実装や産学連携の推進を図る。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】 地域連携および地域貢献の推進を図る。

【計画】

授業や研究指導を通じて、地域連携や地域貢献に資する研究課題を検討する。
まちなかゼミナール、高梁市ミニデイ、ワークシェアリング就労支援プロジェクト、グリーンヒル順正等による園芸療法の実践、高梁市介護予防教室等の活動を継続する。

国際化の推進

【目標】 国際学会での発表や英語論文の執筆を推奨する。

【計画】

英語論文の読解などを通じて、世界の研究動向を理解する機会を設ける。
授業や研究指導を通じて、研究課題の国際的な動向を検討する。
国際誌への研究論文投稿等を奨励する。

心理学研究科の計画

学生確保

- 【目標】博士(前期)課程においては、入学者数10人以上を目指す。
博士(後期)課程については、入学者数1名以上を目指す。
- 【計画】
 - ・学部生に対して、より専門性の高い心理学の学びの楽しさを伝える。
 - ・公認心理師受験基礎資格取得希望者に資格の取得を強く訴える。
 - ・九州医療科学大学との連携を強め、優秀な学生の確保に努める。
 - ・博士(後期)課程については、高度な専門性を目指す学生の発掘に努める。

教育の充実

- 【目標】研究指導の質および学位の価値を高め、退学者ゼロの実現を目指す。
- 【計画】
 - ・博士(前期)過程においては、主指導教員1名と副指導教員1名による体制で、学位論文の作成の支援を行う。
 - ・在籍中に少なくとも1回は学会発表をするよう促す。
 - ・きめ細やかな対応を徹底し、退学者ゼロの達成を図る。

研究推進

- 【目標】研究活動への積極的な取り組みと、科研の採択・外部資金獲得を目指す。
- 【計画】
 - ・学内外の学術交流を促進し、大学院生および教員の研究活動を活性化する。
 - ・教員に対して科研費等の競争的資金獲得を積極的に推奨する。
 - ・論文の作成や学会発表の実施を奨励する。
 - ・研究課題を通じた地域連携の推進を図る。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】研究を通じた地域連携および地域貢献の推進を図る。
- 【計画】
 - ・防災・減災教育活動を中心に、地域連携や地域貢献に資する研究を推進する。
 - ・高梁市教育委員会等と連携した地域貢献活動を継続する。

国際化の推進

- 【目標】留学生の受け入れ体制を見直すとともに、国際誌への論文執筆を推奨する。
- 【計画】
 - ・秋学期入学生への指導体制を再検討する。
 - ・英語論文の投稿を奨励する。

(通信制) 心理学研究科の計画

学生確保

- 【目標】 入学定員充足率100%の達成を目指す。
【計画】 集団指導体制をとることで、可能な限り研究の間口を広げていく。

教育の充実

- 【目標】 研究指導の質を高めるとともに、退学者ゼロの実現を目指す。
【計画】 ・研究指導は主指導教員1名と副指導教員2名による体制に変更し、学位論文の作成を支援する。
・多方面から研究者を招聘し、質の高いスクーリング時の指導を行う。
・必要に応じて、オンライン他の個別指導を実施し、きめ細かい対応を徹底する。

研究推進

- 【目標】 研究活動への積極的な取り組みと、科研の採択・外部資金獲得を目指す。
【計画】 ・学内外の学術交流を促進し、大学院生および教員の研究活動を活性化する。
・教員に対して科研費等の競争的資金獲得を積極的に推奨する。
・論文の作成や学会発表の実施を奨励する。
・研究課題を通じた地域連携の推進を図る。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】 研究を通じた地域連携および地域貢献の推進を図る。
【計画】 ・防災・減災教育活動を中心に、地域連携や地域貢献に資する研究を推進する。

国際化の推進

- 【目標】 外国人の入学希望に対する対応を検討しておく。
【計画】 ・日本語レベルを含めたコミュニケーションのありかたについて検討する。

地域創成農学研究科の計画

学生確保

【目標】定員充足率100%を目指す。

【計画】学部・大学院一貫教育のアナウンスを行い、大学院入学への意識づけを早い段階から行っていく。

教育の充実

【目標】きめ細かい指導

【計画】他大学、異分野からの進学があったため、講義の理解度に注意しながら、より細やかな指導を行う。

研究推進

【目標】競争資金の獲得

【計画】学部内学術交流会の開催を計画し、教員間の相互理解と学科間での共同研究体制を構築する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地域企業及び地域との連携をさらに強化する。

【計画】地域企業との協議会に積極的に参加し、学術面における地域企業との共同研究を活性化。また、南あわじ市4つの研究会の再編を計画する。

国際化の推進

【目標】海外留学生との交流の活発化

【計画】岡山キャンパス、高梁キャンパスの海外留学生へ、農学部主催のイベント(さなぶり祭、くにうみ祭)のアナウンスを行い、より多くの参加者を確保し、学部学生との文化の相互理解を促進する。

(通信制)連合国際協力研究科の計画

学生確保
・広報活動の継続 ・入学前Web相談の継続 ・ハイフレックス型授業の実施
教育の充実
・夏季および冬季スクーリングの実施 ・オンライン（Teams）による懇切丁寧な教育・研究指導
研究推進
・修士論文の学術雑誌への投稿奨励
地域連携・地域貢献の推進
・南あわじ市津井地区での「地域調査法特論」（フィールドワーク）をとおした地域との連携
国際化の推進
・国外を対象とした研究の推進

留学生別科の計画

学生確保

- ・大学進学率100%を目標とし、各学部・学科と連携してガイダンスや交流機会を設ける。
- ・海外及び国内協定校、新規開拓校において別科入学前の現地セミナーを入試広報室と連携しながら実施し、進学意欲の高い学生の確保に努める。
- ・設置校進学意識を高めるため、学生部・留学生課とも協力し、学部生との交流を強化する。

教育の充実

- ・学習意欲継続のためにも教職員間で授業や学生の様子などの情報共有を行いサポートする。
- ・日本語学習だけでなく、日本文化理解のための活動も引き続き実施する。
- ・海外の日本語学校などにも指導を行い、日本語能力のボトムアップを図り、別科入学前のレベルを向上させるよう努める。

研究推進

- ・今年度は日本語教育機関認定の申請に向けて、文科省の日本語参照枠の内容に合ったカリキュラムを見直す予定であるので、日本語教育に関して改めて研究しカリキュラムに反映したい。

地域連携・地域貢献の推進

- ・高梁市の伝統文化である「備中たかはし松山踊り」を留学生が体験し地域交流を図る。
- ・地元のイベントやボランティア活動にも協力、参加するなど、学校(留学生)も地域(行政や民間団体等)と連携し多文化共生のまちづくりの発展に貢献していきたい。

国際化の推進

- ・国際人としての教養や適応力を身につけさせるためにも、自国にいても日本の文化や生活習慣等を知る機会を提供する。(セミナー等で)
- ・国際活動をされている企業や団体から外部講師を招き特別講義を実施する。

